社說

露清韓駐在公使

今回林駐清公使は駐露公使に轉じたりと云ふ氏は戰爭中外務次官として直接に外交の事に當り戰後出でて清國に使し通商條約を締結したるのみならず彼の製造稅問題に就ては活潑機敏に運動して當局者が命を傳へしより僅々數日の間に成功したりと傳ふるほどなれば其露國公使に榮轉したるは偶然に非ずして世人も其人を得たるに滿足するならん次に駐韓公使は加藤增雄氏と定まりし由氏は外交官として經驗に富み特に朝鮮の事情に通ずる人なれば亦相應の人物を得たりとして殘るは獨り駐清公使の任命なり是れも速に決定せられんことを望む其次第は今日東洋の外交は特に多事なりと云ふに非ず暫く其椅子を空うすればとて事の實際に妨なしとするも任命す可きものを任命せず二箇月も三箇月も其儘に捨置けば當局者は外交に冷淡なるか但しは甚だ生地なくして適任の人物を得ること能はざるが爲めならんと疑はるゝは勿論にしてツマリ政府の威信にも關す可し特に今の政府は頗る外交を重ずるものにして墨西哥、伯剌西爾、暹羅、布哇の四箇國に公使館を新設しシカゴ、シドニー、アントワープ、牛莊の四箇所に領事館を創設せんとするほどの次第なれば外交官の任命の如きも成る可く迅速にして世の疑を避くること肝要なり況して駐清公使の不在は事の實際に不都合なしと云ふ可らず元來支那人の神經は鈍しと雖もアレほどの大戰爭を戰ふて散々に苦められし今日に於ては其感情の我に對して未だ融和せざるものあるは當然にして自から外交上不如意の一原因ともなる可き次第なれば此時に際し直接に事に當りて萬般の圓滑を謀る者は公使より外ならず一日も其椅子を空うす可らざるなり且又支那は實に世界禍機の伏する所にして各國は寸時も注目を怠らず特に北隣の强國の如きは苦心慘憺日々に侵入して或は其國債を保證し或は鐵道を敷き或は銀行を設立する抔計畫百端至らざる所なし英國も亦座視傍觀するものに非ず汲々として經營に怠りなきは勿論にして去る十六日發の北京電報は突如として報じて云く今度英清間に新約條を締結し清國は關西の五州を開き雲南省と緬甸との境界を定め且つワイルドワン山以北の地を英國に讓與したりと文簡にして委細の情は知り難しと雖も兎に角に對清外交の無事ならざるを察するに足る可し此間に處して我政安閑として傍觀す可らず彼の老大國が世界の問題と爲るは到底免る可らざる運命ならんなれども其時運をして急ならしめたるものは實に我日本なれば今後の運動に於ても我は先陣に立たざる可らず駐清公使の任命速ならんことを我輩の當局者に望む所なり

○金貨本位論（十六）

原　六　郎　氏

金貨[illegible]國家の盛衰[illegible]に關する大問題なれば[illegible]國[illegible]ならず況んや[illegible]して各般の[illegible]に[illegible]はす[illegible]に價值を[illegible]へ研究せ[illegible]ざるもの[illegible]とや金貨論者[illegible]の下[illegible]して最早極度に達したりと云ひ銀貨論者[illegible]は下落すべしと云ふ一は下落するものと推測し一は下落せざるものと豫想す將來の事は何人と雖も豫想と推測の外に於て判斷を求むべからざれども孰れの豫想が道理多きか孰れの推測が根據確かなるかは較量せざるべからず余は敢て金貨論者に反對するものに非れども金と銀とを比較すれば其本來に於て金の貴くして銀の賤しきは勿論、貨幣の性質としても金に過ぐるものなかるべしと雖も奈何せん世界に於ける金は少なくして銀は多きに依り金にして世界に於ける通貨に不充分なりとすれば銀を用ひざるを得ず是に於て銀貨を用ふるの國あるのみならず文明の進步、人口の增加、物品の授受彩多なるに隨ひ通貨は猶ほ益々多からざるを得ず左れば金貨本位の本家本元たる英國に於てすらマンチエスターの如きランカシャーの如き商工業の盛んなる市場にては金銀複本位の說を主張するもの日に多くして米國は目下銀黨の敗北に歸し居るも其潛勢力は益々强大ならんとす而して世界の複本位論者の氣焰も次第に盛んなるものは貴き金のみにて通貨の不足せることを證するに足るべし金は人の望むこと多くして銀は其少なきに依り我邦の如き殊に通貨の多額を要する國に在ては最も適當なるものと謂ふべし何となれば人の望むこと多きものは之を得るに難し旣に之を得れば又失はざらんことに務めざるべからざるに人の望むこと少なきものは得るに易く守るに勞なくして而も國內に於る融通は十分の便利を達するもの是れ銀貨に非ずや人或は云ふ銀貨下落すれば外國との貿易に於て爲換上より受くる損失は固より一般の財產も亦隨て減少すると是れ何んぞ思はざるの甚だしき銀貨下落の爲めに爲換上よりの損失は之あらん然れども一國の財產には毫も影響する所なきのみか銀貨下落の爲め支拂に損失あれば受取に利益あるべし即ち出入にて其差引は十分に着くべし假りに一步を讓りて銀貨下落の爲め損失することあるとしても其損失よりも他に受くる所の利益は迚も比較の出來得べきものにあるまじ見よ爲換相場の爲めに損し又通貨の幾割は金貨に對する價を減ずるとして何程のことある二億圓の一割減ずるとして二千萬圓の價格は金に對してこそ少なけれ國內の融通は少しも變化なけれども若し之を金貨とせば兌換券の準備金としても銀貨に於る兌換券の準備の如く三分の一にては不足なること勿論、少なくとも一億圓を要すべし而して前に述べたる如く人の望むこと多きものなれば其準備金を保護するの困難は銀紙の準備金の比に非ざるべし而して爲に融通上困難を來すことあらば一日の損失は非常のものたるべし金貨論者は銀の下落を極度として今後は騰貴一方とのみと云ふと雖も明治二十三年の騰貴に當りて今後は下落することなかるべしと豫想したるもの多かりしが其豫想に反して今日の下落あるに非ずや一昨年の墨國大藏省の報告に據れば同年に於る世界の銀貨鑄造高は二億六萬圓にして其中に就て墨西哥が二千四百萬圓餘、日本が二千三百萬圓餘を鑄造して其餘各國にて鑄造したるものは孰れも少額なり是に由て之を觀れば日本は小國なりと雖も世界の銀に關しては明に第二位に居るものなり其日本國にして一旦金貨本位を採用せば銀の下落することは疑ひあるまじ若しも銀の下落することあらば金貨論者も確信し居る如く從來日本の商工業の發達せしは銀貨下落によるとなせしものも移て支那に行くは觀易きの道理に非ずや又金貨論者には支那地方の貿易に於て影響なしと云ふ一步を讓りて論者の言ふ通りとせんも歐米に向て日本と支那と競爭し輸出する生絲、製茶の如きは如何、其他金貨論者には物價の騰貴を以て銀貨の下落に歸するものさへあれども物價の騰貴は斯る簡單の原因に由て來れるものに非ず需要、供給の原則に洩れずして日清戰爭後に於る需要の增加は自然物價の騰貴を來たすべく其增加は何に由て來れるか軍人其他中產以下のものにて俄に意外の金錢を懷にしたるものは之を貯藏するより放散するは勢ひの然らしむる所にして此等の人々が有せる購買力は需要の增加する原因なるべし米價高ければ勞銀の高くなるも亦止むを得ざるべし或は通貨の多少も其原因を爲すことあるべし此の如く物價の騰貴も單に銀貨下落の爲に非るは明瞭なり而るを金貨論者は之をしも銀貨下落に歸して金貨本位の論城を堅めんとするは其草卒も亦甚だしからずや要するに斯る重要の問題は其影響する區域の極めて廣く極めて大なるものなれば十分に講究調査すべきものなり

○日本經濟會の金銀論

一昨夜帝國ホテルに開會せる日本經濟會の來會者は殆んど七八十名にして開會劈頭添田壽一氏の金本位採用演說あり其主旨とする處は同氏が嘗て國家經濟會に於て述べたるものと大同小異なりしが唯之を實行する場合に當り一の困難なる事實として耳新らしく聞えしは

●臺灣通貨の始末●

にして添田氏曰く同嶋の住民は古來支那人と同樣法貨として銀を通用するに非ず圓銀或は墨銀とも唯其實價を以て買賣の交換媒介に授受さるゝものなるが故に所謂極印弗と稱して圓銀墨銀の嫌ひなく勝手に其表面に彼等の極印を捺したる貨幣を流用し今日に於ても我兌換券は此極印弗に比すれば常に二割以上の安直にあり故に此間に立ちて兩替を爲すものは支那の開港場より此極印弗を齎らして兌換券と交換し更らに又其兌換券を日本銀行に取附て我銀貨と交換し此銀貨に又極印して兌換券を買廻るもの少なからず且つ其相場には以上の如く二割以上の差あるを以て買集めたる兌換券を我國に送り之を銀貨に換へて臺灣に運ぶも尙ほ且つ少からぬ利益を占め居れり然るに我國にて愈幣制を改革せば此極印弗通用は如何に處分す可きや從來銀に換へ得し兌換券は更に金と換はる事となるゆゑ此金を其儘に臺灣へ持行きては直ちに用を爲す可からざるを以て或は香港又は支那にて墨銀と交換し再び臺灣へ持行きて土人に賣渡す事と爲らんか孰れにしても我版圖內にありながら我法貨に打步を附けて通用するは甚だ不都合なる次第にして此儘に捨て置かば內地は純然たる金貨國となるも臺灣は依然たる銀貨國の形を存して將來大なる不都合を生ずるやも知る可からず故に此邊に就いては當局者も目下熟考中なれども倘は諸君に於ても旨い知慧があらば拜借したしとて段を下れり是に於て會員一同食堂に入り晩餐後更らに添田氏の反對論者として演壇に上りしは

金井延氏●●なり同氏は開口一番先づ曰く近來金貨本位の說起るや之に次いで金貨本位又は金銀兩本位等の反對說もあり孰れの論も[illegible]說として又實際の問題として

歐米諸國に

貨幣には何

りと答へて

氣に金貨本

て國家の經

爲めにする

際にも將來

金にするの

我國經濟の

說を保持す

爲せば幾何

て見る可き

來は益々下

幣を通用せ

可きの弊害

むるは必要

國の經濟事

經歷に依り

金貨國は之

來各國とも

に下落して

業は一時全

るに非ずや

騰貴は利な

して銀に波

波動多かり

には金貨本

るの成算あ

の餘威を以

逸列國を合

常時列國に

り甚だ不便

の幣制を必

得乍ら此故

金は十五億

金貨本位な

僅々二億兩

賠と云ふ可

んとするや

位を我國に

の說にして

行せしむる

標準と爲す

次ぎに大學

●松崎藏之助

問題に就き

當局者の說

る後如何に

地利は近來

如何にして

て同國の學

近來銀貨

とせり

日に於て

して既に

前後二回も